

『余地』

～相談業務を楽しむ方法 19～

<自宅療養>

杉江 太郎

～発覚～

A の家族が発熱した。その家族は数日前に新型コロナウイルスのワクチンを接種しており、最初はその副反応だと思っていた。しかし、数日たっても熱が下がらず、A 自身も喉に違和感を持つようになった。ワクチンを接種した病院に電話をするが中々繋がらない。かけ続けてようやく繋がったと思ったら、「副反応です」との一点張り。家族内に症状が出ている人間がいることを伝えるが、「副反応です」「様子を見て下さい」との対応。とはいえ、A の家族は 39 度台の熱が数日続いている。どこかで検査をしてもらえないかと思い別の病院にも連絡。いくつかには断られたが、運よく繋がった病院が親切で、事情もわかってくれて、検査をしてくれることになった。〇時に車で来てください、駐車場についたら電話連絡を、先生の空いた時間で検査をしますとのこと。A 自身、発熱はしていなかったが、同時に A の検査もしてくれるとのことになった。

A 自身も検査を受けることになったので、その時点ではクーラーで喉を痛めた

かな？程度の症状ではあったが、もし陽性であったらと考えると出勤するわけにはいかず、当日に予定されていたどうしてもキャンセルできない会議については、オンラインで実施出来るように調整をした。

A は、予約時間になったので病院に向かった。駐車場は、1 台分のスペースしかなく、同様に検査待ちと思われる方が車内で待機しているようだった。A は、駐車場から病院に連絡をするが、中々連絡は繋がらない。発熱をしたとの連絡が入り続けているのであろうか。ようやく繋がり、しばらく待機するように指示を受け、車内で待機をする。

1 時間ほどして、ようやく検査を受けられることになり、予約時点では PCR 検査を実施するとの話であったが、待っている間に抗原検査キットが届いたらしく、即日結果が出るからとのこと、抗原検査を実施することになった。

医師は A の鼻奥に細長い綿棒をぶっ刺した。A は、鼻がもげるかと思った。

そしてしばらく時間を置いて、医師が戻ってきた。結果は「陽性」であった。

検査費用は公費負担となり、病院の初診料のみ支払う。(1人3千円程度)思っていたよりもあっさり陽性と言われたことにAは拍子抜けした。もっとたいそうな告知場面があると思っていたのである。しかし医師にとっては日常なのであろう。Aは、医師から薬が必要かと聞かれたので、処方をお願いした。事務的に医師から処方箋を受け取り、3日後くらいには保健所から連絡が入るからと言われ、Aは病院をあとにした。

～自宅療養の準備～

陽性と言われたことにより、10日間のAの自宅療養が決まった。Aはまず、職場に連絡をした。自身のスケジュールを伝え、こちらでキャンセルができる予定、対応をお願いする予定を分けて伝えた。Aの職場には、通信用の携帯やWi-Fiが用意されていたが、Aの手元にはない。職場に取りに行くわけにもいかないため、外の自転車のカゴに置いてもらうように依頼をして、誰もいない隙を狙って回収をした。Aは、まるで違法な取引をしているかのような気分になった。

そして医師からもらった処方薬を受け取らなければいけない。普段利用している薬局に連絡をして事情を伝えたところ、処方箋をFAXして欲しいとのことで、病院にFAXをした。すぐに薬の準備が可能であること、またお会計についても知らせてくれたため、お釣りが出ないように

小銭を準備して、駐車場で落ち合うことになった。駐車場から連絡をすると、すぐに薬剤師が薬をもって登場。お金は、割りばしの先についた空き缶にいれ、直接手が触れることはない。薬も少しだけ開けた窓に滑り込ませるように入れてくれ、受け取ることができた。

あとは、飲食物の確保である。冷蔵庫に買い置きはあったので、しばらく対応出来たとしても、10日間は持たない。いざというときに伝えなければいけないため、近所のスーパーのネットスーパーに登録をした。どうやら注文をしたとしてもすぐに届くわけではなく、2日程度時間が必要であることがわかった。

そしてAは、この10日間、間違いなく暇になると思い、動画配信サイトのサブスクにも登録した。

～体調の変化～

Aは、過去にワクチンを3回接種していた。またテレビなどでは無症状の人も多いなどと報じられていることもあり、Aもこのまま大した症状もなく過ごせるのではないかと淡い期待をした。しかしそれが間違いであると気付くのに時間は必要なかった。

検査をしたその日の夜中、Aは悪寒を感じて目が覚めた。さっそく発熱し始めたようである。体温計は39度台を示しており、身体が熱いにもかかわらず、汗をまったくかかず、身体はさらさらして

いる。解熱鎮痛剤を飲むと、1 時間程度で解熱し、途端に汗だくになる。体温調整機能がコントロールできない状況であった。

3 日程度は、上記のような状態が続いたため、A はその間、ヒートテックを着て、寝るときには羽毛布団を使用し、頭には氷枕を置いて過ごした。(ちなみに真夏の話。)

3 日程度経って、A は、薬を飲まずとも熱が一定キープできるようになった。しかし、次は喉の痛みが強くなり、水分を泣きながら飲むという状態に。その状態はすぐに解消したが、そこから自宅療養が空けるまでは咳と痰が止まらなかった。A は過去にも咳が止まらず、病院受診したら、肺炎になっていたということがあった。今回は肺炎には至らなかったが、呼吸器系への影響が大きいと感じた。

～社会制度の中における A～

A は比較的症状が軽い状況で病院に繋がっている。今回、検査をした病院以外にも、まず家族がワクチンを接種した病院、普段利用している病院にも連絡をしたが、「副反応です」「今日の分の検査は予約が終わりました」と言われ受診することが出来なかった。報じられている感染者数以上に発熱者はいると思われ、検査を希望する人が殺到しているであろう。A は比較的若く、自発的に行動することが出来たが、これがもし、単身の高

齢者などであったりすれば、車での移動もままならず、検査に繋がるのが容易ではなかったかもしれない。検査についても車があることを前提に話が進んでいくため、車を持たない世帯の方は、受診をするだけでも様々な弊害があったと思う。炎天下で椅子に座って待つことも現実的ではない。

また発熱した後であれば、体力的に受診することさえ難しかったかもしれない。比較的元気なうちに受診が出来たことは運が良かったのであろう。

保健所から A への連絡は自宅療養 3 日目の午前中にかかってきた。テレビのニュースによると、1 日数千人という新規感染者が出ているようである。そこに 1 件ずつかけているとしたら、3 日目でも早いほうだったかもしれない。またその連絡の 2 日後に、各種案内が速達で届いた。その封書は手書きで書かれており、新規感染者すべてに送付しているとすれば、すごい手間暇である。

食料支援の案内は、その封書に同封されていたが、申し込みはオンラインで行い申請した 3 日後に届くとのことであった。保健所の方からは、申請をしない人が多いので、是非申請をして欲しいと言われたが、保健所からの連絡が 3 日目、その時点で申請をしたとしても届くのが 6 日目とすれば、確かに申請をしない方もいるかもしれないと思った。(ちなみにこの原稿を書いているのが A の自宅療養

8日目だが、まだ届いていない)

ちなみに、自宅療養期間は、入院と同様の扱いになるようで、契約している医療保険によっては、入院一時金などの対象になるとのことであったが、療養期間を証明する書類もネット上で申請するようだが、そのサイトが止まっているとのことであった。(おそらくパンク)

～孤立を防ぐ～

Aのように自宅療養を余儀なくされた方は援助者、被援助者ともに多いはずである。またこの先、Aのように自宅療養しなければいけない状況になる方も出てくることだろう。

今までも SNS など陽性者がどういった生活をしているのか、何に困るのかなど知ったつもりではいたが、いざAのような話を聞いていると、症状が人それぞれであるだけでなく、そのことに対する社会の動きが地域によっても様々であることがわかる。また、Aのように、ネットの配達や宅配などを駆使すれば、なんとか外に出ずに生活は出来るだろうが、そもそもネットがなかったり、車がなかったりするとそうはいかなくなる。また単身で暮らしている方が、数日分の食料を貯めこんでいるとも思えない。

Aの症状を聞く限り、ただの風邪とは思えない。またインフルエンザとも違う。風邪にせよ、インフルエンザにせよ、特効薬や抗生剤が処方され、回復への見通

しが持ちやすい。新型コロナウイルスについては、確かに無症状の方もいるのかもしれないが、Aの場合はそうではなかったし、なんといっても治療薬は処方されない。Aの若さでこれだけ体力を奪われるとすれば、基礎疾患があったり、高齢であったりしたらどうなっていたのであろうか。

Aが感染したことを巡って、今の社会システムの中で、新型コロナウイルスの及ぼす生活への影響の一部を知ることが出来た。発熱外来、検査、自宅療養、保健所からの連絡という流れは、今の社会の中ではワンセットになっている。その枠組みが、この先もずっとそのままかはわからない。とにかくその流れの渦中にいる方に関わる場合は、その地域の社会資源を知り、想像力を働かせながら関わる必要があるだろう。自宅療養という生活は、社会に出られない生活とも言えるが、逆に社会が関わられなくなる生活とも言える。如何にして孤立を防ぐか、如何にして異変をキャッチできるか、そのあたりの視点が求められていると感じた。

～あると便利なもの～

小銭／お互いお金のやり取りは避けたい。お釣りなしで支払い出来るように。自販機でも使った。

ゴム手袋／飲み物が足りないときに徒歩圏内の自動販売機を使う際、直接触れないように。あとは、病院で支払うときに

も使用。

解熱鎮痛剤／ロキソニンが良く効いた。

でも胃があれた。

スポーツドリンク／結構飲みます。

氷枕／すぐにぬるくなるので、いくつかある方が良かった。

レトルト食品／作る元気がないかもしれない。

アイスクリーム／熱が冷めるし、甘いものが欲しくなるかも。

ゼリー／食欲がなくても食べられるように。

紙皿／洗う元気がないかもしれない。

野菜ジュース／気休めの栄養のため。

水筒／枕元に持っていきやすいし、ぬるくなりやすい。